

## 脈々と受け継がれる神経化学研究への情熱

名古屋市立大学大学院医学研究科

再生医学分野 博士課程1年

松本 真実

今回の神経化学の若手研究者育成セミナー(以下、若手育成セミナー)は私にとって、昨年に引き続き2回目の参加となりました。1回目の参加では、セミナーに参加することだけでなく、学会発表自体が初めてであったということもあり、不安と期待を抱えながら、大会会場の奈良へ向かったことを今でも鮮明に覚えています。昨年の若手育成セミナーでも、例年の諸先輩方の体験レポートにも記されているように、著名な先生方のお話を聞くことが出来ました。さらに、そのセミナーをきっかけに自身の研究に用いるツールを頂くことができ、現在の研究に若手育成セミナーへの参加が直結していることを実感しています。また、普段は同世代の学生が周囲にあまりいない私にとって、同じように研究に励む同世代の人達とも知り合うことが出来たことも初回の若手育成セミナーにおいて、大きな収穫だったと思います。

本稿では、1回目の参加とは一味異なる若手育成セミナーを体験することが出来た本年度の有意義な若手育成セミナーについて記したいと思います。

今回、私は東京工業大学の一瀬宏先生と浜松医科大学の山岸覚先生が講師をしてくださったグループCの「留学の意義とは?~研究スタイルの多様性~」に参加させていただきました。研究者を目指す者にとって、少なくとも一度は考えるであろう"留学"の2文字。先生方のお話は留学先の選び方から慣れない海外生活での苦労話や日本の研究生活とは全く異なる海外での研究生活など、そのどれもが普段は聞けないような新鮮で、私にはまだ想像もできない研究の世界の広さや面白さ、研究と日常生活とのバランス、研究との向き合い方を優しく示してくださる素晴らしい講義でした。そして、両先生方とも、とてもお優しく何よりも、研究も含めて人生を楽しく過ごしていってほしいのが、ひしひしと伝わってきました。私も先生方のように人生を楽しむように研究と向き合っていきたいと強く思いました。こと留学に関しては、講義だけではなく、参加された同世代の人達からも話題に挙がる事が多くありました。博士課程卒業後の留学先が既に決まっている方やこれから留学をしようと考えている方など学生の中でも各々が留学のことを考えており、やはり研究は常に世界に目を向けなければならないと強く感じ、同世代の人からも大いに刺激を受けました。この若手育成セミナーは、その年ごとに魅力的な講義を受けられることや参加者との研究生活の楽しさや悩みや苦しみを分かち合い、明日からの研究意欲をさらに掻き立てられる有意義なセミナーであり、他の学会にはない日本神経化学会の若手育成セミナーの特徴であると思います。

1 回目の参加とは一味異なる今回の若手育成セミナーでは、さらに 2 つの新たな経験をしました。

1 つ目は、若手育成セミナーを経験された先生方が素晴らしい研究をなさり、ご活躍されていることを目の当たりにしたことです。

本大会の優秀演題賞に選ばれた先生方のうち 2 人が若手育成セミナーの OB・OG でした。現在の自分と同じように当時学生であった先生方がこの若手育成セミナーに参加し、数年後には学会の優秀演題賞に選ばれるほど素晴らしい研究を行われた輝かしい姿を目の当たりにし、自分も将来、神経化学の発展を促すことが出来るような質の高い研究が出来る研究者になりたいと思わずにはいられませんでした。また、元々面識のあった先生や講師をしてくださった先生が数年前にはチューターとして若手育成セミナーに携わっていたことや、チューターの先生方が若手育成セミナーの経験者で構成されており、それぞれが現在、研究者として活躍されていることを知り、この若手育成セミナーが現在の神経化学者の通過点の一つとして根付いていることを実感しました。

2 つ目は、若手育成セミナーを運営してくださる先生方の若手育成への熱い思いを伺ったということです。

セミナー開始時の全体説明では、本大会長の白尾智明先生から、いかに日本神経化学会が若手を育成するためのこのセミナーを大切にしてくださっているのかを力強く熱い言葉でお話ししてくださりました。また、講師を務めてくださった先生方や世話人の先生方がご多忙の中、若手とのディスカッションのために時間を取ってください、熱い議論は深夜まで及ぶこともありました。ほとんどの参加者と初対面であるにもかかわらず、先生方がこのように親身になって向き合ってくださいる機会は他にはないと思います。また、世話人代表の石川保幸先生とお話しした際には、有意義なセミナーの礎には世話人の先生方やチューターの先生方の若手育成セミナー実施に向けた入念な準備や、セミナー期間中の気配りがあること、今後の若手育成セミナーの発展を強く願っていることなど、若手育成セミナーを実際に運営してくださる現場の先生の熱い思いを聞くことが出来ました。このような先生方の熱意とご協力があったからこそ、この若手育成セミナーが実施されているのだとセミナーに参加させていただいた者の一人として感謝の気持ちでいっぱいになりました。

1 回目の若手育成セミナーの参加は、初対面の人達に囲まれ、全く未知の世界に飛び込んだかのような気持ちになりながらも、周りの人達とのディスカッションにより普段は体験することのできない有意義な時間を過ごすことが出来たと思います。しかし、2 回目ではさらに、昨年知り合った人たちとの再会を果たし、初対面の人が多くても全く未知の世界と感ずることではなく、その場にすんなり溶け込めたような気持ちになりました。それは、若手育成セミナーに複数回参加している参加者がリードしてくれたことも大きく影響していると思います。また、今回は若手育成セミナーを運営してくださる先生方の運営に関するお話が聞けたことで、ただ参加するだけでなく、運営してくださる先生方に対する感謝の

気持ちが強く芽生えました。まだ、私は 2 回目の参加でしたが、様々な人たちの思いが籠ったこの若手育成セミナーに対する愛着が増したように思います。若手育成セミナーは参加すればするほど、得るものが多いセミナーのように感じます。今年初めて参加された方は、是非来年度の若手育成セミナーにも参加していただき、初回とは一味異なる若手育成セミナーを体験してみたいはいかがでしょうか。もちろん、まだ参加されたことのない方も、臆せず、まずは一度参加されることをお勧め致します。

まだ研究者の卵のような私たち学生にとって、若手育成セミナーは研究者同士の付き合い方を学ぶ場ための貴重な機会でもあると思います。学生であっても、研究者を目指すものとして互いを尊重し、切磋琢磨していけるような友好関係を築く場であってほしいと切に願っております。そのためには、参加者一人一人が自覚を持つ必要があるのではないかと思います。本年度も有意義な若手育成セミナーでありましたが、残念なことに昨年よりも参加者数が少なかったように思います。参加する人それぞれにとって、多くのことを学ぶことが出来るこのセミナーが広く認識され、さらに発展するためには、参加した人達が、いかに有意義な時間を過ごし、この若手育成セミナーを盛り立てていこうとするかにかかっていると思います。今後、日本神経化学会の特徴でもあるこの若手育成セミナーを守り、受け継いでいく責任が私たちのような経験者・参加者にあると思います。

個人的には、来年度もこの若手育成セミナーに参加したいと思っております。今年出会った人との再会を楽しみにするとともに、新しい人と出会い、有意義なディスカッションをすることで多くのものを吸収し、質の高い研究が出来るように、まずは日々研究に励みたいと思います。そして、沢山の人の思いが詰まったこの若手育成セミナーが今後とも継続し、さらに発展しますことを強く願っております。

最後となりましたが、このように素晴らしいセミナーを開催していただきました日本神経化学会の関係者の皆様ならびに、若手育成セミナー運営の関係者の皆様、そして今回の若手育成セミナーのレポートを執筆させていただく機会をくださった関係者の皆様に心より感謝申し上げます。